

# 長年蓄積した金属加工技術を活用した自社製品の拡販

会社名 株式会社ヤマザキアクティブ  
 所在地 長野県埴科郡坂城町南条2223-2  
 従業員 20名程度  
 資本金 1,000万円  
 売上高 3億円  
 業種 金属部品加工、締結部品の製造・販売

株式会社 ヤマザキアクティブ



## 支援を受けるにあたって掲げた事業上の目標

Before

- 金属加工を主軸として、大手企業からの受託生産型事業に取り組んできた。
- 自社製品として「弛み止め防止機能付きボルト・ナット・座金」(ActiveX)の開発に取り組んできたが、認知度が低く、事業の柱にはできていない。

## 支援を受けてできるようになったこと

After

- 自社の強み(知的財産)をPRするための手段を認識し、地方発明表彰での受賞や標準化戦略の導入等、複数の取組を実践できた。
- また、今後事業を着実に実行していくために、契約や営業秘密管理等、内部の仕組みを精査することができた。

## 今後の事業展開の展望

Future

- ActiveXの拡販に向けて、事業戦略・販売戦略を実行へと移していくとともに、認知度・信頼性向上の手段として標準化活用も視野に入れた検討を行う。
- 活動を支える基盤として、契約体系や営業秘密管理等の仕組み強化に取り組む。

## 重点支援を受けた事業や商材

### 特許技術

Strong point 01

座面全体が接触する特殊形状



Strong point 02

振動を吸収する特殊形状

【出典】株式会社ヤマザキアクティブウェブサイト  
<https://www.active-x.jp/>

当社は金属加工を得意とする会社であり、地元の手企業を中心とした委託企業からの受注に基づいて、建設機械部品及び油圧用バルブ、スプール等の素材調達から製品完成まで一貫生産を行っている。

建設・運輸業界でネジの弛みを原因とする事故が発生している状況を目にしたことがきっかけで、当社が長年蓄積した金属加工の技術力・開発力を現場の安全性に生かしたいとの思いから、「弛み止め防止機能付きボルト・ナット・座金」(ActiveX)を開発。

## 重点支援を実施するにあたって整理した課題



取り組んだ課題	課題に取り組んだ背景・理由
事業戦略の策定	ActiveXの製造販売事業を強化していくために、ターゲットの具体化等、事業戦略を明確化する必要がある。
知財戦略の策定	ActiveXの事業展開に際して、知財を有効活用する方策を検討するとともに、認知度向上・市場拡大の手段として標準化についても検討する必要がある。
販売戦略検討	ActiveXが提供する価値が求められる顧客の特定と、当該顧客に対する見せ方・訴求方法を検討する必要がある。
契約整備	外部パートナーとの契約状況について整理したうえで、必要に応じてブラッシュアップする必要がある。
社内体制整備	自社製品を販売する事業を展開するために、社内体制を知財や営業等の観点から見直しておく必要がある。

## 重点支援を通じて受けた支援と支援を通じてできるようになったこと



支援を受けた事項	支援を通じてできるようになったこと	活用専門家
PR強化、ブランド戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>自社技術をPRする方策の一環として地方発明表彰へ応募し、奨励賞を受賞。</li> <li>ブランド戦略として、2つの商標(ActiveXとスカートマークのロゴ)の使い分けを明確にし、リニューアルしたHPに反映させるとともに、カタログ等でも使っていく。</li> </ul>	中小企業診断士 技術専門家 ブランド専門家
知財戦略構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>自社知財権と製品との関係を整理した。</li> <li>自社製品の認知度を高め市場を拡大する手段として標準化活用があることを理解し、標準化の可能性をより踏み込んで検討すべく経産局事業に応募、採択された。</li> </ul>	標準化専門家 中小企業診断士
契約検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部パートナーとの契約に際して、留意すべき事項を把握し、主力事業の契約の見直しの動機づけとなった。</li> </ul>	弁護士
体制整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>営業秘密管理の重要性を理解し、社内のノウハウ・秘密情報のリストアップを実施した。</li> </ul>	知財戦略AD

## 支援チーム紹介

リーダー専門家: 中小企業診断士 中澤 俊彦

活用専門家: 技術専門家、標準化専門家、弁護士、ブランド専門家、知財戦略AD

窓口担当者: 長野県知財総合支援窓口 久保 順一

PO(プログラムオフィサー): 中山 和彦